

第4期（後期）「にいがた福祉リーダー塾」開催報告

主催：新潟県労働者福祉協議会 共催：新潟ろうきん福祉財団

7月の前期からあつという間に3か月。今回は、中央労福協の山本参与をはじめ、労働金庫や総合生協の歴史と役割を専務理事のお二人から学びました。翌日は、得た知識をもとに、グループミーティングに取り組みました。これからの時代に向けた新しい労働者自主福祉運動を担う人材として、今回学んだことを、小論文にして提出いただきますが、どのような気づきが生まれるのか期待しています。

オリエンテーション

前期に自ら掲げた「実践したいこと」を後期まで、どのように取り組んだのかを受講生から発表いただきました。大いに取り組むことができた人、これからの期待したい人、それぞれでしたが、ぜひ実践していきましょう。また、山田氏から小論文の書き方について解説がありましたが、4日間で学んだことだけでなく、自ら調べたり体験したりすることで厚みのある小論文になることを期待しています！

第六講義（第1部）

相談事例をもとに「労働者の生活を支援し続けてきた社会的良心を有する金融機関」として、中川氏よりわかりやすく解説いただきました。



第六講義（第2部）

新潟の総合生協の歴史は、新潟大火、新潟地震、中越地震、と災害によるところが大きく「助け合いの組織」のきっかけとなっています。年表に落とし込んだ資料とともに山口氏より説明いただきました。



第七講義

今までの社会モデルでは立ちゆかなくなっている社会課題を様々なデータをもとに山本氏から説明いただきました。それを解決していくためには、「今だけ、金だけ、自分だけ」の三だけ主義から脱却していかねばならないというメッセージをいただきました。



グループミーティング

塾生同士で与えられた課題に対して議論しました。様々なグループミーティングの方法がありますが今回は、「ブレインストーミング



(BS)法」を活用し、全員の意見を発散させ、収束してまとめる作業です。意見発散でとまどっているよう



でしたが、参加者同士で力をあわせ、最後は、4分間という時間制限の中で発表をみごとに組み込んでいました。

修了証交付式

4日間を通して受講された16名に対して、新潟県労福協齋藤理事長より「修了証」が手渡されました。学びと気づきの多い実りある4日間であったことでしょう。



プログラム／講師

■10月7日（金）

オリエンテーション

「福祉リーダー塾で研修する課題及び（レポート）小論文の提出と作成のポイント」

山田 太郎
（新潟県労福協専務理事）

第六講義

第1部「労働金庫運動の基本方向と課題」

中川 亨氏
（新潟県労働金庫専務理事）

第2部「全労済運動の基本方向と課題」

山口 栄氏
（新潟県総合生活協同組合専務理事）

第七講義

「ビジネスユニオリズムからソーシャルユニオリズムへ～働くことを軸とする安心社会の実現に向けて」

山本 幸司氏
（中央労福協参与）

■10月8日（土）

グループミーティング

ファシリテーター

小野塚 勝一
（新潟県労福協 事務局長）

東條 雅夫
（新潟県労福協 事務局長）

青木 信之
（新潟ろうきん福祉財団 事務局長）

中村 昇
（新潟ろうきん福祉財団 地域共生推進室アドバイザー）

【編集後記】後期はグループでの議論が中心の二日間でした。第1期から第3期までの卒塾生が集まって「未来塾」も結成されています。今回の塾生からも2名が運営委員に加わることとなり、実践はこれから！楽しみですな～！（富）

小論文：提出締切
2016年11月10日（木）
必着厳守！！